

# 令和3年度 第5回摂津市立千里丘小学校学校協議会 要点録

令和4年1月28日(金)18:30~19:30

於:千里丘小学校 東棟1階会議室

記録:紅林 陽子(事務局:本校教頭)

出席委員:中田 康之、以登田 毅、佐野 英和、寺田 洋子、青木 みゆき、木下 さひ子、藤浦 清美、前馬 晋策、  
橋爪 恵子

欠席委員:武友 加代子 (敬称略)

学校出席者:校長 撰田 裕美、教頭 紅林 陽子

## 1. 校長より挨拶

ここ最近オミクロン株の新規感染者が急激に増えてきて社会全体が混乱している。本校では学級閉鎖には至っていないが、感染リスクが全くないわけではない。その中でこれまでと同じように教育活動を進めてきたが、27日からはリスクの高い活動を控えるよう、制限がかかっている状況。感染者数の少なかった11月に林間学校、修学旅行に行くことができたことがよかったと思う。

3学期始まってからの学校の様子。

### ●1月17日(月)避難訓練

(校長)阪神淡路大震災のあった1月17日に実施。今回の避難訓練は掃除時間中に実施。

### ●1月19日(水)クラブ活動

### ●1月21日(金)1年国際理解学習

メンター研修

### ●1月24日(月)千小っ子運動タイム

### ●1月26日(水)研究発表会

ICT機器操作研修(Zoom)

(委員)すごく先生方が熱心でびっくりした。みなさん熱心に議論されていて、このような機会を得られてありがたい。授業動画が30分から40分であったが、全学年拝見した。時間を図りながら活動したりする中で、児童たちは活発に意見を述べ合っていた。自分達の時代とは授業の進め方が違って、驚くことばかりであった。

(委員)講師の辻村先生を存じ上げている関係で。やっぱり授業は生ものなので、できれば生で見たかったと思う。辻村先生のお話を伺っていて、授業は形式も中身も変わってきていると思う一方で、意外と教員の授業観が古いままになっている。今の時代に求められる力を育むためにも、授業観を変える良い機会になったの

ではないだろうか。

(校長) 53名の参加があった。学校としても初めてのことで戸惑うこともあったが、当日は比較的スムーズに進めることができた。中身については今ご指摘いただいたことなどについて、校内で一致して取り組んでいきたい。

●27日(木) 国循連携授業→延期

●28日(金) 味生小学校より支援教育の訪問

## 2. 令和3年度学校経営計画の自己評価について

(校長) 本年度の学校経営計画に対する自己評価について、ご意見をいただきたい。アンケートや質問紙調査の肯定的回答の割合の結果(昨年度からの増減や全体の比率など)を評価指数として、◎・○・△の3段階評価で行っている。

### (1) 安全で安心な学校づくりについて

(校長) (1) ①『人権感覚を育む取組み』については、アンケート結果からも「学校が楽しい」の肯定的割合は高いものの、1割近い児童が否定していることから○とした。

(2) ②『個に応じた適切な指導』については、支援担任と通用学級担任とで「個別の指導計画」の共有をするなど、取組みが進んだ。学校協議会でも教室環境などについて、肯定的なご意見を頂いている点、教職員対称のアンケートでも取組みが進んでいると実感する教員が多くなっているという結果から◎とした。

(4) 教員の育成に関わる項目。①『資質・能力の向上を図ることができる教員の育成』については、3年目の教員など、自信を持って取り組める場面が出てきた。ただ、広い部分での育成がまだ十分でないことから◎ではなく○とした。②のミドル層の育成についてはまだまだ途上である。中堅層の教員がこれまでの経験にとらわれて今の時代の変化に対応できていない部分があり、△とした。

(委員) 中堅層の育成については、指標が難しい。どんな組織でもそうなのだが、担当だけで事業を回すと手取り早い。しかし、そうなる则独りよがりになりがち。全体で取り組むという意識を作るのは難しい。評価する指標には何が適切なのか、どこまで求めるのか。永遠のテーマだと思う。

(委員) 育成が難しい。社会でも育成は難しいと思うのだが。

(委員) 会社の場合であれば、資格の獲得が人材育成の一つの目安になる。先生方の中で若年層の割合が多いことは年度初めにお伺いして少し不安になったが、経験の浅い職員の底上げができていることは大きな成果だと思う。

(委員) 「組織で行うことの理解が進んでいない」というより「組織で行うことの効果が分かっていない」のでは。組織的に動くことがどんなことにつながるのか、という内容について研修を行えばよかったのかもしれない。学級経営についても同じことだと思う。具体的に示すことが必要だったのではないかと思う。

(委員) 千里丘小学校の先生方が成長したかどうかというのは、測りづらい。仲間づくりであっても、授業づくりであっても「教師が根底に何を大事にしているか」ということが重要だと思う。千里丘小学校の先生方で共通したねらいが持っているのかがどうか。目に見えるのはなかなか難しいとは思うが、それがあつたらベース学校としてのベースがあつくなると思う。

(校長) 指標については検討する必要があるのではないかと、というご意見については受け止めて再考する。若手の育成が進んでいることについては評価いただいたと思う。

(2) 確かな学力と体力を育む学校づくりについて

(校長) (1) 学力向上については、国語の研究を軸に、授業改善を進めているところ。

①『授業改善』については、学校全体として研究の取組みを進める一致した方向性はできたように思うが、授業改善についてはスキルの余地がまだまだある、ということで〇とした。

(2) 体力向上①『運動習慣定着』については、千小っ子運動タイムの取組みが進んだが、6年生の肯定率が低かったため、〇とした。②『授業改善』については、教職員対象のアンケート結果を見ると授業改善が進んでいると感じている教職員が多い。ただ、授業力の在り方としてはまだまだ未熟な部分が多いので、〇としている。

(委員) 千小っ子運動タイムを拝見した時に、高学年の子たちが低学年のお世話を積極的に行っていたのが印象的だった。なのに、6年生の回答が肯定的でなかったのはなぜなのだろうか。

(校長) 6年担任を話したところ、サーキット自体は楽しんでいるが、昨年度までのランニング中心の千小っ子運動タイムを想定して答えた可能性もある、とのことだった。また、校医から「6年生に肥満が多い」ことを指摘されている。低学年からの生活習慣も関係あるのかもしれない。前回ご意見いただいたように、経年で比較して分析していく必要があると考えている。

(委員) 6年生ではこういう傾向がある、というより、今年の6年生はそうだと、ということだろうか。

(校長) 一概にはそう言えないが、その可能性もあると考えている。相関関係については調査ができておらず、今の段階でどういう状況か、ということしか測ることができていない。

(委員) 評価には定性的な評価と定量的な評価がある。定性的な評価は、抽象的な評価になりがちなので、教育委員会も定量的な評価指標を求めてくる。しかし、アンケートそのものが客観的な定量的な評価になっているかどうか疑問だ。今回のケースでも、取組みの様子を見ていると、楽しいと思っている6年生は多い印象で、否定的に見る必要もないように思う。客観的な評価指標にこだわるのではなく、目の前の子どもたちの様子から評価してもよいのではないかと。千小っ子運動タイムを通して、運動が身近なものになった、と言い切ってもよいと思う。効果はあったし、◎でもよいのではないのではないかと。

(校長) 正直、指標についてはこれでいいのか悩ましいところである。アンケートの結果がもっと肯定的になると思っていた。アンケートの一部分をどう見取るのか、難しい。

(委員) 先日、6年生の体育の授業を見る機会があったのだが、とても活気があったし、教員も楽しんで授業していた。見学者も見学者なりに参加しており、意欲の向上が図れている。アンケートの数字としては上がってはいないが、運動に触れる機会を楽しみ姿が見られる、と肯定的に捉えてもいいと思う。アンケートの結果にとらわれなくてもよいのではないだろうか。

(校長) この部分についてはもう一度分析していこうと思う。同様に学力の指標も難しい。全国学力・学習調査の結果だけ見ると全国と比べて成果は上がっているが、もっと学校でできることはあると考えている。評価については悩むところである。

### (3) 信頼される学校づくり

(校長) (1)開かれた学校づくり『保護者・地域との連携』については、学校協議会の昨年度同等の実施回数ではあるが、昨年度に比べて協議の内容が活発になってご意見を頂くことができたということで◎とした。PTAについては、昨年度はコロナの影響でなかなか活動が進まなかったところであるが、今年度はよりPTAがより意義のあるものになるために協議が進んだ、という実感がある。

(委員) 学校協議会で活発に話をしている、自己満足に終わっているのではだめだと思う。校長はこの協議会で話し合った内容(要点録)を職員に示していると伺った。協議会でやっている協議をここで終わらせず、学校経営に活かさない意味がないと思っている。私たちから出た意見を教職員と共有して運営に活かしている、ということが我々にとっても嬉しいことだ。

(委員) 「学校協議会で出た意見を教職員と共有できている」という評価を入れて頂いたら、私たち協議会の委員としても嬉しい。協議会を行っている意義がある。

(校長) 職員はみなさんの声を嬉しく受け止めている。HPの更新回数が上がっている学年もある。

(委員) 私たちの声が学校の力になっているというのであれば、こちら嬉しい。学校の実態を見て、我々は意見をしているのだが、それが先生たちの感性にどれだけ響くか、というところ。PTAがFTA (family:子どもを取り巻く家族、おじいさん、おばあさん、叔父、叔母など親以外の大人) になっている学校もあると聞いている。千里丘小学校でPTAが存続していることは素晴らしい。ともすればPTAの役員だけがPTAと捉えられがちだが、そうではない。誰か一人でがんばるのではなく、体制・組織として全体でどれだけがんばれるか。開かれた学校のポイントは『子どもの味方』民生委員、生活指導担当など。いろんな人が学校を向いてくれたら、力になる。安心・安全も高まるし、先生たちの支えにもなる。

(委員) 最近、活動ができていない状況については聞いているが、現状PTA活動はどうか知りたいところではある。PTAの存在が淘汰される学校もあるのかもしれないが。

(校長) 今年度は学級委員や図書・厚体委員など、制限はあるものの各委員の活動は再開している。わくわくカーニバルをどうするのか、については今話し合っているところ。わくわくカーニバルを

通して地域とつながっていた、という経緯もある。違う形で実施するとなると、地域との関わりをどうするのか、これからもつながりを持つためになにができるか、模索しているところ。

(委員) 尼信さんとお話しているときに、わくわくカーニバルのことをきかれた。地域も関わってきたい思いがあるのだと思う。改めて、地域とつながっていたことを実感した。形を変えてでも何か存続できることはないのか、探してほしい。

自分がPTAに関わって一番思ったのは、PTAがあるからこそ、地域とうまくつながっている、ということ。一つひとつの組織ではうまく成り立たない。みんなが集まって繋がっているからこそうまく成り立っている。関りは大切にしたい。

(校長) 今回いただいた意見を自己評価に盛り込んで再度見直そうと思う。

(委員) 評価の欄はスペースが狭くはあるが、成果と課題の両方を書いてはどうか。◎出も課題はあると思う。逆に△でも成果はある。「積極的に研修を行い、授業改善は一定進んだが、更に改善の余地がある」とか。教員も見るのであれば、教員の意欲向上にもつながるような評価である方が次の学校経営に活かせると思う。

(委員) この評価は次につなげるためのものであるから、見た職員のやる気につながるような使い方をした方が良いと思う。次に活かせるものにした方が良いと思う。がんばったことをここに書いて総括にしていくなど、職員のがんばりを認められるような書き方をしてはどうか。

(校長) 頂いた意見をもう一度練り直して評価をし直そうと思う。

(委員) この後の流れはどうなるか

(校長) 関係者評価としていただきたいと思う。それぞれの回で貴重なご意見を頂いているので、それをまとめて関係者評価をいただきたい。その後、それを受けて次年度の学校経営計画を作成する。

#### 4. 次回の予定

次回日程は、2月17日(木) 18:30～ に開催。